

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1174300432		
法人名	特定非営利活動法人 三山の家		
事業所名	グループホーム 元気村		
所在地	埼玉県本庄市田中105-1		
自己評価作成日	平成22年1月8日	評価結果市町村受理日	平成22年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.fukushi-saitama.or.jp/saitama22/">http://www.fukushi-saitama.or.jp/saitama22/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市宮前町2-241		
訪問調査日	平成22年2月23日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

私達のホームは「配慮するケア」を実践しています。ここでの生活は短いものです。ここを出れば施設か病院行き。人として、その人らしく生活できるのはおそらくここが最後であり、人生の最終ステージと言っても過言ではないでしょう。だからこそ、せめてここでの暮らしは「ゆっくり、のんびり、穏やかに」過ごして頂きたい。出来ない事が増えても、わからない事が増えても、その人らしく過ごして頂きたい。職員一同が共通の想いで支援に当たらせて頂いております。その為、私達が発する言葉や態度にも気を配り、表情や行動、言葉から常に心理を探り、配慮を積み重ねて来ました。それと同時に私達は入居者様から常に様々な事を学ばせて頂いています。人としての在り方、生き方、家族の歴史、感謝の心の重さ、人としての醜さ。それらを私達は真正面から受け止め、悩み、考え、様々な感情を抱きつつ、共に歩ませて頂いています。グループホームとは本当に奥が深いところです。それを職員一同が痛感しつつ、抜群のチームアプローチで日々支援に当たらせて頂いております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

畑に囲まれた平屋の1ユニットのホームである。門扉も無く、玄関脇に洗濯物が風にはためき、生活感と開放感がある。建物中に入ると、理念「ゆっくり、のんびり、穏やかに」が目につき、その雰囲気は伝わって来る。管理者・職員は、入居者と関われる事を喜びとし、理解したい、笑顔が見たい、との思いで、気づきや情報を常に共有している。家族・市町村・運営推進会議のメンバーに、ホームの暮らし振りを理解して頂ける様に、事業所のリスクも含め、資料を送付し、透明な運営を心掛けている。自己評価を職員一人一人が取り組み、検討し、サービスの向上を目指している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(している)事業所の掲げる理念の言葉内には、地域密着と言う文面は入っていないが、職員全員が(ゆっくり、のんびり、穏やかに)の理念を共有し、住み慣れた環境内で安心して穏やかに暮らして行ける様、全力でケアに当たらせて頂いている。	理念について、管理者・職員全員で話し合い、共有している。具体的には、強制しない・せかささない・感謝する心をケアに反映させ、目的としている自発性の拡大につないでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(している)近隣の方々の交流は勿論、民生委員の方や地元のボランティアの方々が定期的に来所して下さっているし、事業所じたいも地元の消防安全協会会員として交流を図っている。	自治会・消防安全協会に加入し、交流がある。民生委員・ボランティアの定期的な訪問があり、楽しい触れ合いを大切にしている。退職した職員が赤ちゃんの顔を見せに來たり、近所の農家から新鮮な野菜が届けられる等の交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(している)月1回の広報誌で情報を開示し、認知症への理解を深めて頂ける様訴え続けている。また、必要に応じ、様々な相談に応じている。これ以外にも、専門的研修に参加した時などその報告書を広報誌と合わせて様々な方へ配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(している)その時々ホーム内の状況に応じ議題を提示、時には事前アンケートを取り、ご家族様を始め民生委員の方や近隣の方々の御意見を伺い、日々のケアに活かしている。ご家族様から議題提示をして下さる事も多々ある。	運営推進会議を奇数月の第二土曜日と定め開催している。事業所の取り組み内容等を議題とし、参加者からの活発な発言の中に、苦言、褒め言葉、家族の求めている率直な意見が出され、日々のケアに活かされている。	今後の運営推進会議には職員も加わり、退去なさった家族をお招きする等、家族の生の声を聴く機会を得て、更なる地域密着型サービスの向上につながることを期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	(している)毎月、ご家族様に発送している各種書類の全てを市町村にも発送し、ホーム内の状況を伝えている。また、ホーム内で起きた問題等に関しても随時相談すると、必要に応じ資料を下さったり、アドバイスを下さったりと、協力して下さる。	市町村担当者へ運営推進会議の内容を報告し、入居者の暮らしぶりを伝えている。困り事の相談に応じてもらい、又、市の職員異動があっても引き継ぎがなされ、良好な関係が続いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(している)身体拘束は勿論だが、心理的抑制もしない様、超え掛けや対応にも配慮している。ただし、安全確保の面からやむを得ず玄関の施錠をする事もあったが、その場合は事前にご家族様等に報告し了解を取った上で一時的に施錠した。	身体拘束・心理的抑制を行わない姿勢で取り組み、一人ひとりのサインを素早くキャッチし、寄り添い、自由な暮らしを支援している。予測されるリスクを家族に説明し、同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(努めている)これについては職員会議内でも話し合った事があり、職員のストレスマネジメントも含め、こういった事が起きない様、職員全員が再認識し注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(している)これに関しては特に勉強会等は行っていないが、入居者様の中にはこれらに関連している方もいらっしゃるのので、日々の業務の中で情報を共有しあっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(している)入所前から既にこういったご説明をさせて頂いている。更に、入所時にも再度ご説明申し上げ、ご家族様に納得して頂ける様努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(している)ご家族様からのご意見・要望には速やかに対応し、書面でも回答している。また、ご家族様の理解が取ればそれぞれのご家族様にも書面で詳細をお伝えしたり、推進会議の場にてご報告させて頂き、共に考え日々のケアに活かしている。	家族の面会の都度意向を伺い、又、定期的な便りの他に、暮らしの中の困り事の過程も報告し、それに対して家族からの意見や気づきが寄せられ、改善につながっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(している)日々のコミュニケーションや職員会議で、意見を言い合う機会がある。そして、良い案があれば直ぐに実践している。常時、情報交換し合える環境にある。	職員から意見を聞く特別な面談は設けていないが、常にケアの現場で話し合い、提案された事を取り入れるようにしている。職員の異動時は、入居者・家族に理由を伝え、影響のないよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(務めている)個々の努力や能力を見極めていと思う。また働きやすい環境作りを心がけ、私達職員の意見にも耳を傾けてくれる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(している)各種の研修に等に参加させてくれるし、勉強会の開催にも理解を示してくれる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(している)交換実習を実現させてくれた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(務めている)ご家族様や担当ケアマネより情報収集をし、それらを分析すると共に、事前訪問を行い、ご本人様の不安や要望を聞き、少しでも安心して頂ける様、最大限の努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(務めている)上記同様、家族支援にも最大限の配慮をし、対応に当たらせて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(務めている)上記同様、できるだけ迅速に対応できる様、最大限の努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(している)職員全員が「共に生活する」と言う観点で接し、「介護」では無く「支援」と捉え、一緒に笑ったり、怒ったり、泣いたりしながら暮らしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(している)ケース記録を送付したり、担当職員から手紙を送るなどし、情報の共有化を図りつつ、ご家族様に協力して頂ける部分は協力して頂きながら、共にご本人様を支えて行ける様、家族間をつなぐ懸け橋となれる様、努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(している)在宅時代から続いているお稽古事に今でも通っていらっしゃる方もいる。この部分のサービスに関しては、職務と言うより、職員一同の想いで行っている。。また、ご家族様のご協力により実現している部分も多々あり。	入居前の趣味の教室へ月二回遠くまで職員が送迎し、先方・家族に予測されるリスクを説明し、継続出来るように支援している。馴染みの散髪屋へ通ったり、墓参も家族の協力を得て行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(務めている)職員一同が入居者様同士の懸け橋となり、円滑な人間関係が築ける様、一人一人の心理を探りつつ、徹底した配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(している)推進会議に出席して頂いたり、必要に応じ随時対応させて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(している)要望等を正確に言葉で表現出来ない方が殆どの現状なので、日々の暮らしの中で見受けられる表情や行動、言動などから心理を探り、希望や意向を把握する様に努めている。	これまでの生活歴・家族関係・生き方を家族から伺い、日々の関わりの中で観察し、意向をくみ取るように努めている。コミュニケーションの取りにくい方にも意向を汲みとれるように心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(務めている)ご本人様やご家族様から情報を提供して頂き、それらを日々の生活と照らし合わせ、より深く理解していける様、職員一同心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(務めている)徹底した観察を職員全員が行い、尚且つ、情報を共有化し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(している)3か月に1度、担当職員がアセスメントと取り、問題点等を職員全員で考えると共に、ご家族様の意向も伺い、現状に即したプランを作成している。	ケアの現場で職員がアイデア出し、臨機応変に実行したことを介護計画に反映させることもある。見直しには家族と意識のずれがないように、その都度症状を説明し、情報の共有と確認を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(している)毎日、個別の記録(ケース記録)を記載し、個々の連絡等は「連絡ノート」に記入し、職員全員で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(している)ホームとして、できる限りの事はやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(している)地元ボランティアの方々や民生委員の皆様、消防署、警察所などとも連携体制が整っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(している)ご家族様と話し合いの下、掛かりつけ医を決め、受診支援を行っている。また、状況に応じてはご家族様にご協力して頂いている。	かかりつけ医の受診は、家族の協力もあり継続している。その場合には、受診前に容体を伝え、翌日の受診とし、受診結果に関する情報、服薬表はコピーして家族に渡し、事業所・家族の双方で共有出来るようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(していない)看護職員がいない為、協働はない		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(している)入居者様が入院した時は積極的に病院関係者と情報の共有化に努めている。また、入院時だけでなく、日頃から、病院側との連家が密になる様、関係作りにも力を入れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(している)左記の内容については、毎回の様に月末の手紙や推進会議内で訴え続けている。「看取り」じたいは行ってないが、「看取る」だけがターミナルケアとは考えていない。ここで暮らす最後の日までをいかに穏やかに暮らして頂けるかを、ご家族様と共に考えていける様、取り組んでいる。	入居者の重度化に伴う情報は家族に伝え、事業所が対応し得る最大の支援方法と、ハード面の限界を家族にきちんと伝えている。穏やかに暮らせるように、家族と共に方針を話し合い、取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(している)勉強会等で学び合う他、実践の場においてもその都度行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(している)火災訓練に関しては行っているが、地震や水害に関しては訓練は行ってない。この部分に関しては、前々からの課題であり、関係各所に問い合わせるも、現実的訓練に至る環境下ではない為、実施できずにいる。	火災訓練は消防署の指導のもとで行っている。初期初動・消火器の使い方の訓練・避難経路と避難場所の確保等を確認。災害時の地域協力を得るまでには至らず、備蓄品もこれからの課題としている。	火災・災害時に少しでも安全に避難誘導が出来るように、自治会・運営推進会議で協力を呼び掛け、近隣との連携を大切にしたい体制を築いていくことが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(している)言葉かけに関しては、職員一同最大限、細心の注意を払い、声をかけた相手だけでなく、それを聞いている他の方々の受け取り方にまで配慮し、言葉を選び声掛けをしている。	管理者・パートを含めた全職員が配慮するケアを心掛けている。自己決定しやすい言葉かけやタイミングに注意し、嫌な感情が残らないよう心掛けている。気づきに不足があった時は、その事例から学ぶ努力をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(している)入居者様が自分の想いを表に出せる様に話しやすい雰囲気作りは勿論、威圧感を与えない様注意している。また、自己決定に関しては、二者択一方式を取り入れるなどの分かりやすい環境を作り、不安や混乱を防ぐ様、配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(できる限りしている)食事や体操、入浴などある程度決まってしまうものもある。しかし、それ以外に関してはできるだけ入居者様のペースで生活して頂ける様、支援させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(している)重度化が進んでいる現状では、難しい部分が多々あるが、一人一人の能力に応じた支援をさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(している)重度化が進んでいる現状では、食事準備や片付けを行える入居者様はごく一部である。上記同様、一人一人の能力に応じた支援をさせて頂いていると共に、自分らしい食べ方で食を楽しんで頂いている。	皆がテーブルを囲み、同じメニューで和やかに食事をし、玄米と職員が工夫した野菜たっぷりの献立。心地よい音楽が流れ、食事が済むと下膳する方、使用したエプロンを集める方、テーブルを拭く方と、それぞれ力を発揮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(している)一人一人に応じた食事量を提供し、玄米&野菜を中心とした食事内容である。水分摂取に関しては特に気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(している)毎食後の口腔ケアには必ず職員が介入し、徹底した口腔ケアに取り組んでいる。また、夜間は義歯をお預かりし、ポリデントにつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(している)「オムツはしない」と言う基本方針の下、できるだけトイレでの排泄を心がけ支援している。	基本的にオムツを使用しない方針で一人一人のサインを職員が把握し、支援している。便秘のないように、朝は乳酸菌飲料、日中は運動と水分補給、就寝前はホットミルクと、薬に頼らず気分良く排泄出来るように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(している)玄米や牛乳、野菜を中心の食生活と水分摂取を常に心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	(していない)入浴日は決まっている。しかし、入浴スタイル等に関しては、一人一人の生活歴や好みを出来るだけ尊重し、支援させて頂いている。	週3回の入浴を実施。本人の意向により、順番を後にしてゆっくり浸かる、仲良しと一緒に入浴する等、自由に楽しんで頂いている。入浴を拒否する方は、原因が分かるように寄り添い、無理な入浴はしないようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(している)夕食時にはオルゴールの曲等、静かな音楽を掛け、尚且つ就寝前にはホットミルクを提供するなど、眠りにつきやすい環境作りをしている。また、寝具や室温にも気を配ると同時に、昼間の生活にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(している)服薬表は必ず保管し、誰がどんな薬を飲んでいるかを常に確認できる様になっている。また、薬の変更などの情報の共有化も、徹底しているし、状態の変化に応じて、直ぐにDrに確認するなどしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(している)音楽療法やアニマルセラピー、大正琴の慰問は楽しみの一つになっている。個別となると難しい部分が多々ある。それでも、自分なりの役割を持つ等の支援はできるだけ行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	(一部の方のみしている)現在、認知症の進行、体力低下、失病の悪化から外出はかなり危険な方が殆ど。その為、散歩や買い物等はごく一部の方に限られている。	家族の協力を得て定期的に馴染みの散髪屋へ行き、その後お決まりの食堂へ立ち寄りも居る。揃っての外出が困難になっている。自宅に外泊した際、家族から階段に上れなくなってきたと指摘され、リハビリ支援を考えている	下肢筋力の低下予防に診療治療院と提携したリハビリ支援を考慮中とのこと、本人・家族と話し合い、実行につながる事が期待される。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(一部の方のみしている)お金の大切さは職員一同理解しているが、保管や管理は勿論だがお金そのものが理解できない方が殆ど。その為、一部の方のみお金を所持し外出の際、使っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(している)ご本人様からの希望があれば、随時対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(している)天井や窓、玄関には季節ごとの飾り付けがしてあり、入居様が季節を感じて頂ける様、工夫している。	広いリビングを囲んだ居室は、採光と風通しが良く、季節を感じられる飾り付け、入居者のきり絵・習字の作品が飾られている。広々としたフロアにソファを配置し、おしゃべりを楽しんだり、洗濯物をたたむ姿もあり、居心地良い共用の場である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(している)一つのホールにソファやテーブルなどを置き、思い思いの場で穏やかに過ごして頂ける様、配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(している)入居前から使用していた家具や寝具、壁飾りなどを居室に置き、居心地の良い環境作りをしている。	仏壇や家具等、本人が必要とする物は居室に置き、家族の写真が飾られ、安心感がある。本人や家族と相談し、布団を敷いている居室もあり、手作りの暖簾を掛けたり、その人の見慣れた居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(している)入居者様一人一人の状態に応じ、対応させて頂いている。ペットを介護用ペットに変えたり、布団に変えたり、あるいは様々な面においてハード面も見なおしたりしている。		